

令和7年 由布市観光動態調査

【観光客総数】

(単位：人)

月	日帰り①	左のうち外国人②	宿泊③	左のうち外国人④	合計 ①+③	外国人計 ②+④
1	252,366	108,654	116,255	36,565	368,621	145,219
2	225,823	100,240	107,064	32,121	332,887	132,361
3	244,701	91,727	132,506	27,805	377,207	119,532
4	251,176	96,335	121,620	28,178	372,796	124,513
5	249,754	87,601	133,056	22,867	382,810	110,468
6	210,870	67,942	91,220	16,503	302,090	84,445
7	192,699	52,344	86,392	12,078	279,091	64,422
8	207,034	56,868	118,860	13,289	325,894	70,157
9	209,528	60,219	97,033	13,830	306,561	74,049
10	250,195	93,959	124,139	24,841	374,334	118,800
11	254,532	93,140	143,026	26,996	397,558	120,136
12	254,405	106,757	122,154	32,509	376,559	139,266
計	2,803,083	1,015,786	1,393,325	287,582	4,196,408	1,303,368
前年	2,902,445	1,141,561	1,395,458	302,826	4,297,903	1,444,387
対前年比	96.58%	88.98%	99.85%	94.97%	97.64%	90.24%

令和7年 由布市観光動態調査

【 発地別観光客数 】

(単位：人)

	北海道 東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄			外国	合計
							福岡県	その他九州	大分県		
日帰り	18,951	152,162	89,640	101,357	110,617	39,329	436,856	346,127	492,258	1,015,786	2,803,083
宿泊	15,123	130,882	65,340	110,928	77,597	28,217	371,533	167,660	138,463	287,582	1,393,325
計	34,074	283,044	154,980	212,285	188,214	67,546	808,389	513,787	630,721	1,303,368	4,196,408
前年	34,068	279,381	119,494	192,090	140,073	60,081	815,559	548,070	664,699	1,444,387	4,297,903
対前年比	100.02%	101.31%	129.70%	110.51%	134.37%	112.43%	99.12%	93.74%	94.89%	90.24%	97.64%

【 観光消費額 】

(単位：千円)

令和7年	27,951,738	前年	27,199,998	対前年比	102.8%
------	------------	----	------------	------	--------

令和7年由布市観光動態調査結果について

令和8年6月3日

由布市商工観光課

1. 調査対象期間

令和7年1月～12月の1年間

2. 調査結果の概要

令和7年の観光入込客数は前年（令和6年）を101,495人下回る**4,196,408人（前年4,297,903人 対前年比97.64%）**となった。また日帰り・宿泊別では、日帰り客が2,803,083人（前年2,902,445人 対前年比96.58%）・宿泊客が1,393,325人（前年1,395,458人 対前年比99.85%）となりいずれも減少となった。

旅行者全体の男女比は、男性が55%、女性が45%となった。男性・女性別の年代別構成比（10代以下、70代以上除く）は、男女ともに50代以上で約45%（男性50代：12%、60代：13% 女性50代：9%、60代：11%）を占める結果となったが、世代別に大きな差はなく、満遍なく来訪している。

また、月別来訪者数では、7月が最も少なく、11月が最も多く、約12万人の差があった。これは、夏場の海外を中心とした天変地異の噂による旅行控えの影響が大きく、また猛暑による出控えも加わったことが要因と考えられる。その他の月に大きな凹凸はないものの、ここ数年の傾向として、6月～9月の暑い時期にやや低調気味であり、これまで繁忙期であった夏休みシーズンも猛暑の影響もあってか減少傾向にあることから、今後の動向が懸念される。

日本人観光客・外国人観光客別でみると、日本人観光客数の日帰り客は1,787,297人（前年1,760,884人 対前年比101.5%）、宿泊客は1,105,743人（前年1,092,632人 対前年比101.2%）と日帰り客及び宿泊客ともに微増した。対して外国人観光客は、日帰り客は1,015,786人（前年1,141,561人 対前年比88.98%）、宿泊客は287,582人（前年302,826人 対前年比94.97%）と日帰り客・宿泊客ともに前年を下回った。この要因は、前述の天変地異の噂による旅行控えの影響が大きかったと考えられ、団体バスツアー等で訪れる日帰り客の減少幅は、最も多い1月と比べると7月は50%以下と大きく落ち込んだ。

また、外国人観光客の約90%は由布院エリアのみへの来訪で、その約80%が日帰りとなっており、来訪場所および来訪時間の集中（お昼前後の時間帯）によるオーバーツーリズム現象が見られる。

国内旅行者の発地別で比較すると、近隣の九州管内は微減、九州外からは増加という結果になった。近隣エリアはほぼ安定、遠方からの旅行者はコロナ禍で減少した分が徐々に回復してきている。

外国人観光客の国別の比率では、半数程度を占める韓国をはじめ、台湾、中国、香港の東アジア圏が全体の92%を占めている。なお、タイやシンガポールといった東南アジア圏、欧米豪からの旅行者も年々増加傾向にあり、今後も増加が見込まれる。

市内エリア別観光客数（国内旅行者のみ）は、由布院、塚原、湯平、庄内・挾間の市内各エリアとも、前年比増となり、特に庄内（男池周辺）エリアと挾間エリアは10%以上増と伸び率が大きく、ここ数年の増加傾向も続いている。庄内（男池周辺）エリアは、男池湧水群への来訪者のほか、ミヤマキリシマが咲く頃の黒岳登山者が増加しており、挾間エリアは近隣地区からの温泉利用者、夏場の涼を求める由布川峡谷への入峡者が増加しており、継続して取り組んでいる市内の周遊促進事業により各エリアが持つ魅力の認知が徐々に進んできていると考えられる。